

小さな灯をまもる人びと

1963
作品ナンバー0055

文部省選定



数年前、なお子は、東京へ働きに出て結婚したが夫が結核で亡くなり、郷里に帰って、村本と再婚した。だがいまだに闘病の末に死んだ前夫の記憶が残っていた。なお子は村本に前夫の死因を言っていない。だから村の保健所や結核予防会の人たちの宣伝カーが住民検診を呼びかけてくると不安にかられた。村の結核予防婦人会の検診の日に、隣に住むつね子が誘いにきたが、なお子は隠れるようにして行かなかった。罹っているといわれた時の恐怖、検診の結果が恐ろしかったのである。それになお子は妊娠していた。やがて、なお子は子供を生んだ。心配したが、赤ん坊は元気に育っていった。

そしてまた、検診の日が近付いてきた。個別訪問に来たつね子や婦人会の人たちに、あなたの胸の写真が大切な赤ん坊の生命を守るのだといわれ、なお子はショックをうける。こわごわ結核についての講習会に出て、結核での死亡率は30代では高く怖い病気であることを知る。なお子は勇気を出してレントゲンの前に立った。心配で食事もうを通らないほどだったが、結果は白だった。赤ん坊を抱きあげたなお子は涙が出てとまらなかった。

それ以来、なお子はつね子たちとともに積極的に結核予防の活動の手伝いを始めた。だが夫の村本は、なお子が結核予防活動にのめり込むのを怒った。なお子は初めて前夫が結核で亡くなったことを告白した。村本は愕然とする。検診の日が来た。なお子は受付係をしながら待っていた。なお子の気持ちは重かった。夫は来ないかもしれない。だが村本は子供や姑をガーデン・トラクターに乗せて現れた。なお子は胸が熱くなった。そして固く心に誓った。婦人会の人たちとともにこれからも小さな生命の灯を守り続けよう、と。

劇
35ミリ
白黒／30分

- 企画
(財)結核予防会
- 協力
長野県小布施町

スタッフ

- 製作
村山英治
大西雅夫
- 脚本
片岡 薫
- 演出
木村莊十二
- 撮影
木塚誠一
- 照明
内藤伊三郎
- 音楽
和田則彦
木村 一

- 出演
大河内 稔
根岸宮子
渡辺 明
篠塚三千子
左右田一平
西堀鈴江
糸井光弥
秋月喜久枝
西島悌二郎
野村昭子
片岡藍子
他